せん

発掘調査により、無量光院の本堂の前の地面に敷かれていた正方形のせんが発見されました。このようなタイルはこの寺の独特のものであり、同じような様式の他の浄土式庭園では見つかりません。無量光院は京都にある有名な仏教寺院である平等院鳳凰堂を直接のモデルとしてつくられたが、このようなタイルがあるのは無量光院だけです。

発掘された無釉薬の焼成タイルの多くは、ひどく壊れた状態で発見され、本来のかたちに復元するのは非常に難しいものでした。再構築の作業によって、タイルは長さ 40cm、厚みは 7cm だったと考えられています。